

立命館大学における科研費申請支援と 研究高度化政策について

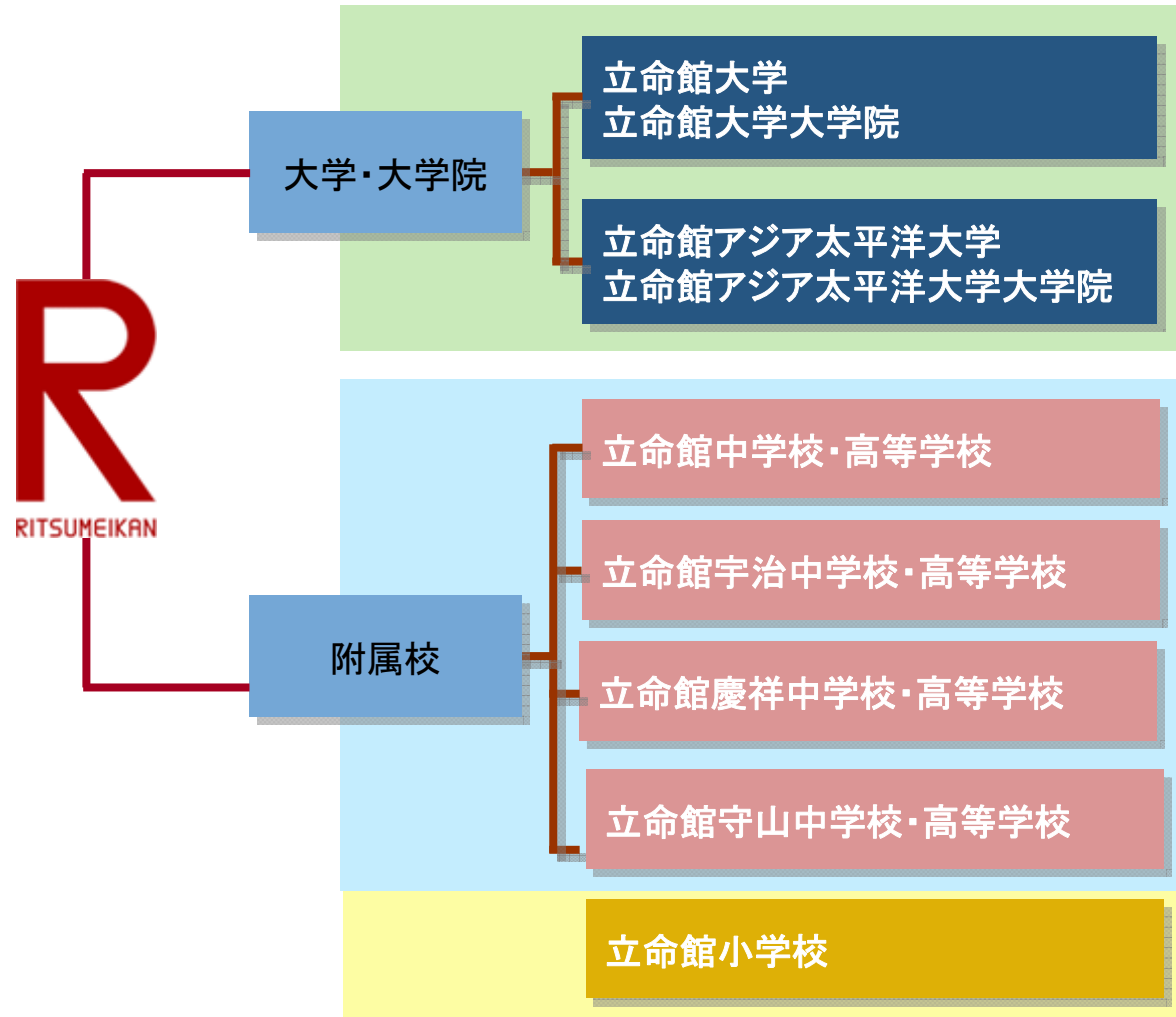
2013年11月19日

立命館大学 リサーチオフィス(BKC)

栗山 俊之

立命館学園の構成

■ 立命館は2大学、4キャンパス、5附属校から構成



衣笠キャンパス



びわこ・くさつキャンパス



朱雀キャンパス



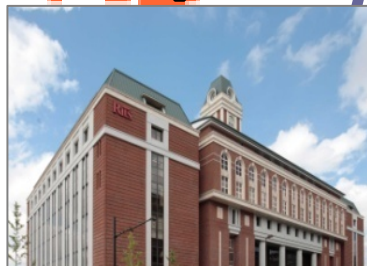
アジア太平洋大学

立命館学園の大学構成

立命館アジア太平洋大学 (APU)
(大分県 別府市)



BEPPU



立命館大学
朱雀キャンパス
法科大学院・経営大学院
・公共政策大学院

KYOTO

KUSATSU



立命館大学
衣笠キャンパス
法・産業社会・国際関係・
政索科学・文・映像学部 等

TOKYO

※2015年 大阪府茨木市に新キャンパス開設予定。

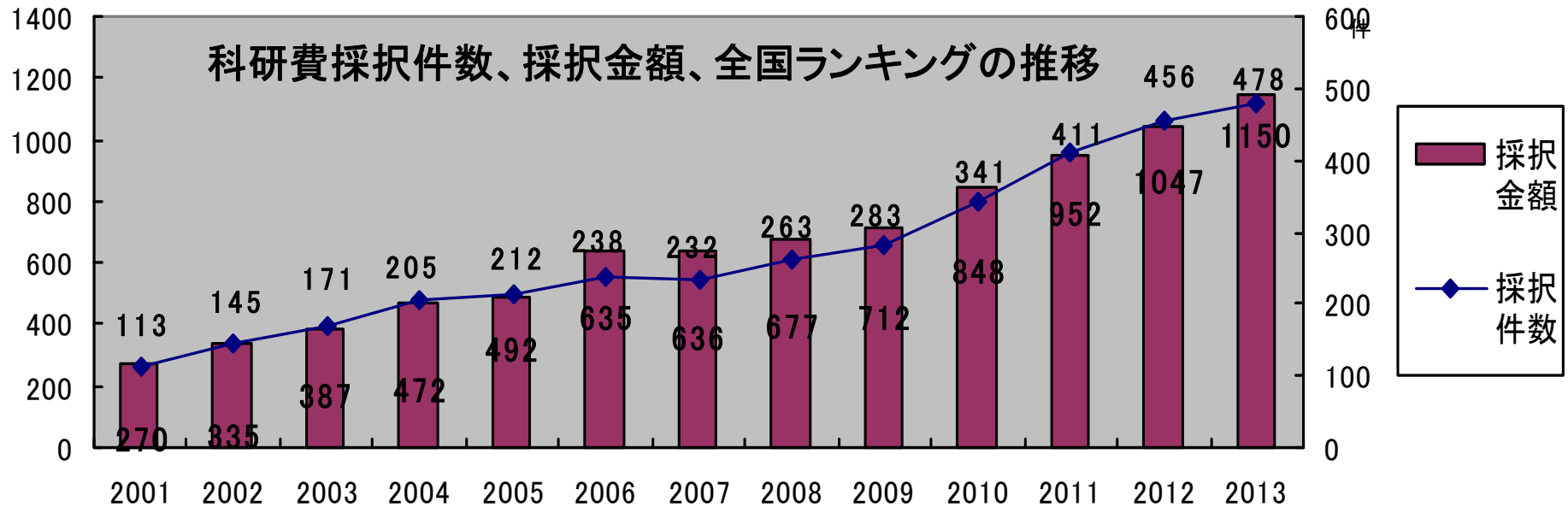


立命館大学
びわこ・くさつキャンパス
理工・情報理工・生命科学・薬・
スポーツ健康科学・経済・経営 等

教員数・学生数 (2013年5月現在) (人)

	立命館大学	立命館アジア太平洋大学
教員	1,244	162
大学生	32,280	5,474
大学院生	2,924	181
うち外国人留学生	1,194	2,420

科研費の採択状況



	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
科研費予算総額 (億円)	1,419	1,703	1,765	1,830	1,880	1,895	1,913	1,932	1,970	2,000	2,633	2,566	2,381
採択件数 本学順位	68	58	65	41	40	37	38	35	34	31	29	26	25
採択金額 本学順位	70	58	62	48	52	39	42	40	41	31	32	29	25

第1期研究高度化中期計画期間
(2006-2010)

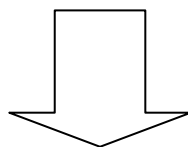
第2期研究高度化中期計画期間
(2011-2015)

応募／採択状況の特徴

- i. 採択種目は基盤B・基盤C・若手Bが中心、萌芽研究も採択が増加
 - －ポスドクの増加に伴って若手研究の申請も増加
 - －学内助成制度がスタートアップになり、科研費の申請も促進
 - －他大学との連携や、複数分野の連携によるプロジェクトの創出が課題

- ii. 人文学・社会科学系分野では新規採択率が高い
 - －新規採択率は全国水準に比べて、毎年数ポイント～10ポイント程度高い
 - －応募率向上が課題

- iii. 自然科学系分野では応募率が高い
 - －専任教員ベースで、毎年8割以上の応募がある
 - －新規採択率向上が課題



学内助成制度に加え、分野毎に支援方針を策定

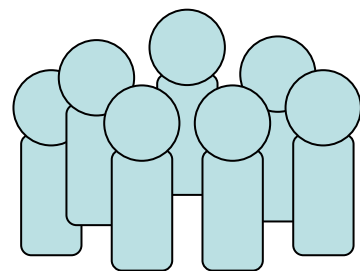
テクノプロデューサー制度

■ テクノプロデューサーとは

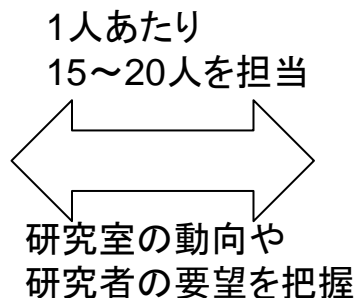
産学官連携・研究プロジェクトを推進する

=Pre-AwardからPost-Awardまでの業務をワンストップで担当

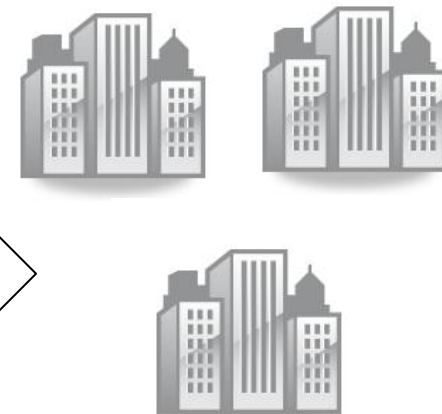
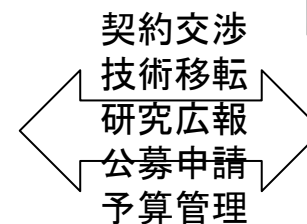
- ①研究室の運営計画、外部資金導入計画を把握し情報提供
- ②技術シーズ、特許など知的財産マネジメント
- ③研究プロジェクトのコーディネート、外部資金申請、運営を支援
- ④公的資金等の経費執行管理を担当
- ⑤研究成果の発信、研究広報、社会への還元



大学教員・研究者



テクノプロデューサー



企業・公的機関

学内助成制度との連動による応募促進

①研究推進プログラム「基盤研究」「若手研究」

- 自由な発想に基づく基盤的な研究を支援
- 申請書は科研費の計画調書に应用できるように工夫
- 科研費の保有実績、申請実績を考慮し、審査時にプラス評価

②研究推進プログラム「科研費連動型」

- 不採択課題に対して、次年度の科研費応募のための資金を助成
- A評価で不採択になった案件に限定し、次年度への応募を助成要件化

③専門研究員プログラム

- 若手研究者の育成と本学の研究環境の充実が目的
- 学内外のポスドクを公募し、大学予算で雇用(3年任期)
- 文系、理系、すべての分野が対象

科研費応募時期での取り組み

①現状の分析

- －当年度で採択課題が終了する案件、ポスドク等の若手研究者、学内助成制度の採択状況などを分析

②部局(学部・研究科)執行部と連携した応募促進

- －教授会等を通じて部局執行部から応募促進の働きかけを実施

③リサーチオフィス担当者による個別訪問

- －学内説明会と連動し、8月～9月頃から個別訪問を実施

④審査委員経験者による計画調書のブラッシュアップ

- －審査委員経験者を科研費応募アドバイザーとして委嘱し、若手研究者や希望者に対して、計画調書のブラッシュアップを実施
- －リサーチオフィス内でも形式要件チェック、ブラッシュアップを実施

⑤過去に採択された計画調書の公開

- －過去に採択された計画調書を学内限定で公開

大学としての科研費の活用

①研究活動の”見える化”が促進

- 学内の誰が、誰と(研究者ネットワーク)、何をやってきたか(実績)、何を目指しているのか(研究計画、希望)が網羅的にわかる
- 学内の研究蓄積の状況、特長などの分析が可能

②アカデミアによる研究計画に対する評価

- 論文や学会発表は研究成果に対する評価
- 科研費は研究計画(これからやりたいこと)に対する評価であり、研究の高度化を推進できる。

③研究環境の充実

- 外部資金の導入により、研究環境が高度化
- 科研費を活用したプロジェクトベースでの教育にも貢献